



ヒポクラテス

(BC460ごろ-BC370ごろ)
古代ギリシャの「医学の父」



高峰 譲吉

(1854-1922)
「タカジアスターゼ」「アドレナリン」を発見



北里 柴三郎

(1853-1931)
伝染病を予防する血清療法を開発



アレクサンダー・フレミング

(1881-1955)
英国人。伝染病の特効薬「ペニシリン」を発見

ジェームス & くすりーな くすりを作った人たちのことを教えて

こんにちは、しるです。みんなは、風邪をひいた時にくすりを飲んだことあるよね。どんな人たちが、くすりを発見したり、作ったりしているんだろう。製薬会社「第一三共」が運営するDaiichi Sankyoくすりミュージアムのキャラクター、「ジェームス」と「くすりーな」に、くすりの研究開発をした人たちのことを教えてもらったよ。



しるちゃん

◆しる そもそも、くすりはいいつ頃からあるの？
ジェームス 紀元前の古代文明の時代にもあったようじゃ。古代ギリシャで、病気に初めて科学的に考えた「医学の父」ヒポクラテスは、くすりとは人間の自然治癒力を助けるものだと考えておった。

◆しる 今のようなくすりができたのはいつ頃？
くすりーな 18世紀の後半、自然界にある植物や微生物から、くすりの種になるものだけを取り出せるようになります。19世紀後半に化学や生物学が進歩して、くすりがあるように、くすりの種を人工的に組み合わせで作られたフレミングの世紀の発見「ペニシリン」も生まれたんです。

◆しる 海外の人の発見が多いんだね。日本人は発見してないの？
ジェームス 明治時代、科学者の高峰譲吉は、食べ物の中で消化する成分を、植物から見つけたんじゃ。自分の名前をつけたその成分「タ



カジアスターゼ（※1）は、胃腸薬として世界的に有名じゃ。その後、血を止めるくすりなどに使われる「アドレナリン」も発見しておる。

くすりーな 同じ明治時代の科学者、北里柴三郎は、破傷風やジフテリアの血清療法（※2）を発見し、伝染病予防に大きく貢献しました。日本人には偉大な発見者が多いのよ。

◆しる くすりができるまで、どれくらいの時間がかかるの？
ジェームス 一つのかすりができるまで、10年以上かかるのが普通じゃ。時間だけじゃない、何千万の人がかわり、たくさんのお金がかかる。大プロジェクトじゃ。

くすりーな くすりは病気を予防したり、治す手助けをしてくれて、人の健康を支えているのね。高峰譲吉の「タカジアスターゼ」「アドレナリン」は発見から100年以上たった今でも人類の役に立っています。くすりってすごいんだね！



見習い助手
くすりーな
ジェームス

もっとくわしく
知るには

Daiichi Sankyo
くすりミュージアム

くすりミュージアムではくすりの歴史についてさらに詳しく知ることができるほか、くすりの成り立ちやからだにくすりの関係を、クイズや対戦型ゲームなど合わせて22のコーナーで楽しみながら学ぶことができます。春休みには期間限定のモンスターカード企画も実施します。



東京都中央区日本橋本町3の5の1
開館時間：午前10時～午後6時（入館は午後5時半まで／月曜休館）
入場無料（10人以上の場合は要予約）
詳しくは<https://kusuri-museum.com/>